

第4回王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定検討会  
議事要旨

◇ 日時

平成29年3月27日（月）午後2時から

◇ 場所

北区役所第一庁舎 4階 第二委員会室

◇ 会議次第

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議題

「王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定」について

4. 区長あいさつ

5. 閉会

◇ 出席委員

28名

会長 出口 敦

副会長 関澤 愛、久保田 尚

委員 前田 英寿、杉崎 和久、上野 雄一、中島 高志、奥山 宏二  
牧野 和宏、野崎 誠貴、小林 毅久、井料 青海、三吉野 育人  
米 彰、清塚 淳、新井 隆之、齋藤 邦彦、安藤 昇作

堀江 毅、越野 充博、齊藤 正美、尾花 秀雄、水越 乙彦、依田 園子  
中澤 嘉明、浅川 謙治、横尾 政弘、荒田 博

◇ 議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言

2. 委員紹介

- 委員名簿にての確認
- 所用につき代理出席、および欠席の委員がいる旨連絡

3. 議題 「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定」について

- 傍聴希望者の入場
- 事務局より配布資料に基づき説明を行った後、質疑応答
- 質疑応答の内容は以下に示す通り

(会長)

2つの資料に基づいて説明があったが、まず資料4の内容について、何かお気づきの点等あれば、お願いしたい。特になければ、資料5について意見を伺いたい。まず大きくは4章構成ということになっているが、前半の第1章と2章について、何かお気づきの点があればお伺いしたい。

(委員)

6から7ページにかけて、東京都の新たな都市構造の考え方に基づいた位置付けというところで、かなりしっかりしたものが入ってきたという印象を受けた。ここに記載のある「王子においても個性ある王子らしいまちづくりの検討が必要です」や、「王子独自の個性を伸ばしていく必要があります」はまさにその通りだと考える。しかし一方、「王子地区と赤羽地区は北区の拠点として一括りとし」の意味合いがよくわからない。

(事務局)

この部分については、東京都と区の考え方を調整をした表現になっている。東京都からは、王子単独では北区の拠点として成立しづらく、赤羽と王子がそれぞれ個性を出し合っ  
て連携し合いながら、王子の発信力を高めていくことが重要ではないかといった指摘を頂  
いている。また北区都市計画マスタープランでも、拠点とネットワークの考え方に通じる  
内容があり、それらを踏まえてこのような表現としている。

(会長)

東京都として広域的に見たときには、王子と赤羽が互いに補完し合わなければいけない  
という意味で、一括りという言葉を使っているということか。補足等していただければと  
思う。

(事務局)

南の拠点の一つである品川などと比較すると、規模や発信力などについて、王子だけで  
は成り立ちづらいという認識を持っており、赤羽と王子が一つになって北の拠点を形成し

ていく方向で考えているが、表現については工夫したい。

(会長)

表現を工夫いただきたい。

他になければ、次に後半の3章と4章について、お気付きの点等あればご意見を頂きたい。部会でも議論いただいたかと思うので、両部会の先生から、コメントや補足などあればお願いしたい。

(副会長)

コンセプトの「水と緑のまち」という表現の中で、水が重要かと思っている。石神井川については、臭気などネガティブな側面の方が強調されすぎており、ポジティブにどう活用していくかみたいなのがあまり見えない。現時点で具体的な絵を示すという段階になっていないのかもしれないが、「水があるまち」ということで積極的に打ち出していくことはできないか。

(事務局)

この前の部会等の中でも、石神井川については、例えば川に向かって景観等に配慮して建物を建てるべきなどと、いろいろとポジティブな意見は頂いている。展開施策案の中に、「石神井川の水辺利用」という表現があり、その中で様々な工夫をしていきたいというようなことで記述をしている状況である。臭気については、現実問題としてまだ課題が大きいということで、10-4のような記述としている。

(会長)

施策の中に文言は入っているようであるが、それをどう事業展開していくかが今後課題になってくるということ、十分認識しておいていただきたい。

(委員)

にぎわい・活性化検討部会は、対象が広いということもあり、なかなか具体的な議論が深まらなかったという印象がある。コンセプトに関しては、以前までだと新しい働き方ということ強調していたが、必ずしも新しい働き方だけではなくて、もっと幅広い働き方など、暮らし方も含めたほうがいいという部会で出た意見を踏まえ、豊かなライフスタイルという表現に修正いただいたかと思う。そこが前回からの大きな変化である。1点気になるのが、この「まちの骨格形成の考え方」のオレンジ色のところに、「次世代住・工複合ゾーン」と書いてあるが、次世代という言葉は恐らく今までなかったのではないか。この言葉を入れた趣旨を補足いただきたい。

(事務局)

次世代という言葉は、今回新しく入れたわけではなく、これまでもゾーニングの図の中で示していた。意味としては、木造住宅密集地であり、かつ住居と工業などいろいろな要素が絡み合っているゾーンである地域の特徴を、次の時代に向けてどう整理をしていくかということ、一つのポイントを置き、そういったことを踏まえて、この表現になっている。当初から使用している言葉であるが、その表現自体がこれまであまり議論には至ら

なかったこともあり、そのまま使用している状況である。

(委員)

新しい起業などの動きが出てきているという議論はしていたが、確かにこの表現については議論ができていない。現時点で、次世代のイメージがあるわけではなく、むしろ北区らしい住・工複合の形が残っているゾーンの特徴を踏まえ、今後議論をしていきたいということに理解した。

(事務局)

具体的な内容については、次のステップに入ってから、いろいろと議論いただくことになるかと考えている。

(副会長)

「目標とするまち」が、「国内外から人が集まるまち」から「みんなで守り・創るまち」と4つ掲げられており、このそれぞれについて、以降の「交通拠点」、「にぎわい・活力」、「自然・文化・歴史」、それから「防災性の向上」のまちづくりの方向性が対応すると理解している。しかし「みんなで守り・創るまち」の文章に防災の話が書かれていない。対応しているのであれば、加筆するなど調整いただきたい。

(事務局)

文章等の表現を今後工夫したい。

(会長)

次世代住・工複合ゾーンについては、新しいイメージを打ち出していきたいということかと理解するが、東京都の中では大田区が、住・工混在地域として有名である。いろいろな工房などがまちの中にあり、クリエイティブな生活が送れるまちといったイメージを新たに打ち出そうとしており、そういった他地域の例も参考にしつつ、北区あるいは王子周辺ならでは次世代の住・工複合ゾーンを作り上げていっていただければと思っている。

(委員)

31ページの6-2、「周辺街区の機能更新や区有地活用等による、交通広場と一体的な整備」という箇所の、「周辺街区」というのはどこを指しているのか。周辺ということは、何かがあってその周りということを使うわけだから、その真ん中にくるものはどこか。

(事務局)

王子駅の周辺街区と考えている。

(委員)

12ページの「王子は行政機能等の集積が進んだ結果、十分な商業機能の展開が図られておらず、駅周辺に集まる人の流れをうまく売りに上げて反映できていない傾向がある」という現状の分析からは、新庁舎の移転だけでにぎわいは生まれにくいということが言える。その分析に対しては、例えば6-1の「交流促進・にぎわい創出の視点を踏まえた新庁舎整備」なども記載があるが、関係する民間敷地との共存共栄に基づくにぎわい創出など、手法なども視野に入れて考えていく必要があるのではないか。

また、新庁舎の規模も、にぎわい創出という観点から、多様な考え方を持っていただきたいと考えている。

それから、緑のネットワークと川のネットワークについて、「自然・文化・歴史資源が豊かなまち」という目標をもって考えていくということは大変素晴らしい。今後公園の指定管理なども考えていく際には、ぜひこのランドデザインをベースにした考え方をしていただきたい。一般的な都市公園の、いわゆる子どもたちが遊ぶような公園の管理とは一線を画し、この緑のネットワークと川のネットワークを王子で実現をするといった気概をもった指定管理の発注の仕方をしていただきたいと考えている。

最後に、まち全体でにぎわいの創出を考えていくときに、駅の近くの民有地と庁舎の間に幅の広い道が入ってしまうような開発をしてしまえば、にぎわいの創出について非常にマイナスを生じると考える。そういった懸念も考慮した上、ぜひ次年度以降の整備計画では、再開発の事業主体に対する考え方や、全体の基盤整備に対する考え方を具体化していただきたい。

(会長)

重要な指摘であったかと思う。一つはにぎわいの創出等に関して、特に商業に関する課題を強く打ち出しているの、それを区役所の移転を契機にして進めていくためには、公民だけではなく、地権者や民間事業者と強く連携をしていかないと進められないということ強調していきたいと思う。それについては20ページ、目標とするまちの「みんなで守り・創るまち」というところに入っているが、もう少し強調したほうがいいかもしれない。さらに指定管理の話については、できる限りこのランドデザインでの方針に従いつつ、民間の力も活用しながら、公園の利活用を進めていただきたいというのが、要望を含めてのご意見かと受け止めた。

(事務局)

指定管理の手続き等をする所管の部署が出席しておりますが、ご意見を参考にしながら進めていきたい。

(委員)

ただ今の発言に関連して、36ページの次年度以降の、整備計画の策定に関する検討体制はどのように考えているのか。

(事務局)

現時点ではまだ検討中である。説明の通り、整備計画策定に向けて本格的に動き出すのは、ランドデザインを策定した夏以降になると現時点では考えており、今後その頃までに検討をして、結論を出していきたいと考えている。ただし整備計画では、事業内容や事業手法などを具体的に定めていくことになるため、その際の前提として、地権者など関係事業者と十分協議を行い、合意形成を図るといった作業が必要になってくると思っている。そういったことも踏まえて、整備計画の検討体制については、関係者と十分調整を図りながら実効性のある検討体制を構築できるよう、今後検討していきたい。

(委員)

グランドデザインで大きな方針が決まり、これから駅周辺の再整備など、いろいろ検討に踏み込んでいくという大事な時期だと思うので、今以上にぜひいろいろ相談いただければと思っている。

(委員)

これまでの委員会の中でも駅前の整備のあり方やどう変わるかということについて高い関心を持たれていた。36ページの整備計画の策定の中にある、先行実施地区における「(仮称)王子駅前整備計画」の策定の中で検討する駅前広場のあり方等は非常に重要になってくると思っている。都としても協力していきたいと考えているので、検討体制については、引き続き何らかの部会等を持ってやっていただければと思っている。

(委員)

37ページのスケジュール案の中、「10年後：新庁舎の整備完了を想定」という記載を見ると、例えば28ページの2-1の「バリアフリー動線整備などによる立体的な歩行者ネットワークの強化」など、新庁舎整備と関連づけて、ある程度同時期に整備がなされないと効果が出にくいものがあるのではないかと思っている。その点を考慮すると、先行実施地区の範囲もある程度絞られていくことになるのではないかと。ただし実現性を考慮すると、この10年という期間は短いような気がする。加えて、駅から少し離れた地域に関する施策に関して、例えば12-1の「自然・文化・歴史資源を中心とした区民憩いの場づくり」などが、具体的に何を言っているのかわからない。スケジュール案の中では、30年後以降と想定されているが、そこまで待たないとできないのかということも疑問に感じている。まとめると質問は2点あり、1点目は、新庁舎整備をベースとしたとき、10年以内にやるものはこの内容で本当に大丈夫なのかということ。2点目は、実施を30年後以降としているものに、何か理由があるのかということ。

(事務局)

スケジュール案は、現時点での想定ということを示しているものである。先行実施地区の絞り込みはこれから行っていくことになるが、スケジュール案の中で短期として示しているものは、先行実施地区の中に入っていき可能性も高いと認識している。また、整備に当たっては、条件整理や機運の醸成などとの関連もあり、若干スケジュールも変わってくる可能性もある。長期に位置付けているものについても、条件や状況によっては、前倒しの可能性も今後考えられる。適宜、その時の状況に応じて見直しを行っていきたい。

(委員)

12-1にある「区民憩いの場づくり」は、例えばこういったことを想定しているのか。

(事務局)

今回のグランドデザインでは、このレベルでの考え方のみ示していることを理解いただき、整備計画の段階で具体的な事業内容を示していきたいと考えている。12-1については、駅の西側の部分ということで、自然・文化・歴史資源が非常に多い地域の中にあり、かつ

住宅地であることを考慮し、今後詳しく検討していく際の頭出しをした状況であるということを理解いただきたい。

(会長)

改めてこの場で、ぜひ次のステップでは具体的に進めていただきたいということを伝えておく。他に何かなければ、都市基盤・開発部会の先生方に、部会での議論などから補足することがあればお願いしたい。

(委員)

都市基盤・開発検討部会では、3回開催したうちの前半は、交通に関連した議論がメインであった。今回の冊子の中では、駅の立体的な問題や、集中する交通をどこまで見ておくかというあたりの課題出しをしているが、整備計画においては、どの範囲まで検討を深めるかによって、数値データをどこから入手し、どの精度を求めるかなど、さまざまシビアにやっていく必要があると感じている。後半では、ある程度共有された課題に対して、駅の周りをどのように特徴づけしながら更新していくか、例えば、歴史や水と緑などをどう活用するかなどの話も出た。特に、区庁舎が印刷局の場所に移転するということは、近代化産業との絡みなどを考慮し、近代の歴史との連続性みたいなものをしっかり考えた方がよいのではといった議論があり、本日の冊子にはそれらが十分反映されていると思っている。ただ、2章で課題などがかなり細かく整理されていることに対して、展開施策案があっさりしすぎていることが若干気になる。

(副会長)

都市基盤によるまちの分断が、恐らく皆が一番重い課題と認識していることかと思っているが、その課題に対して、歩行者空間確保や回遊性向上など個々の施策は書かれているが、その基盤自体をどうしていくかの方向性が抜け落ちているような気がする。大胆な、あるいは大規模な事業を駅前で展開できるのかが、ちょっと想定しにくいような感じがする。まちの分断などの課題を、大規模な事業で解決していく可能性が少しでもどこかで示唆されるといいような気がしている。

もう1点部会の中では、29ページの2-4の自転車に関して、例えば次の5-2「赤羽・池袋・日暮里との連携強化」とも関連して議論があり、現時点で具体的な連携の施策を記載することは難しく、表現も抽象的に留まってしまった中、例えば自転車をつないだらどうかといった意見があった。コミュニティーサイクルなど、さまざまな自転車絡みの施策があり、「各拠点との連携を見据えた」といった修飾語が、2-4の記載の前にあってもいいような気がしている。「安全で快適な自転車通行空間の整備」というと、都市計画マスタープランに書いてあることみたいであり、今回はランドデザインであるため、少し「拠点との連携を見据えた」などの記載があってもいいのではないかな。

(事務局)

自転車に関しては、今般作成した新しい中期計画の中で、北区全体の自転車ネットワークの計画の検討を始めるということを計画化しており、今後概ね2年間かけて検討してい

く予定である。その進捗具合をみながら、整備計画の中でも内容の整合を図っていきたいと考えている。

(副会長)

行政内の事情は理解したが、王子のグランドデザインをつくる立場から考えて、もし今後自転車空間ネットワークをつくるということであれば、こういった思想が求められるというアピールをここでしておくこと自体には、特に問題がない気もするが。

(事務局)

区の内部で十分調整させていただいたうえで、可能であれば検討させていただくということでしたら承りたい。

(会長)

考え方としては、やはりここで議論した内容は打ち出しておくべきではないのかという指摘も頂いているので、それを工夫できればと考えていただきたい。

また副会長からは、施策案としては、区がこれから着実にできるような事業を中心に打ち出している印象を受けるが、場合によってはもっと大規模なプロジェクトで、今抱えている問題を抜本的に解決していく方策もあるのではということ、その頭出しぐらいはどこかでしておいた方がよいのではといった指摘だったかと思う。例えば、4章の展開施策案の冒頭にでも、そういった考え方もあり得るということ、書いておいてもよいかもしれない。改めて、まださまざまな可能性があるということ踏まえ、この施策案があるということ、皆さんの共通認識として持っておいていただきたいと思っている。加筆などについては、ぜひ検討いただければと思う。

他に意見などなければ以上とし、とりまとめに入ることにする。

(会長)

それでは最後、王子駅周辺まちづくりグランドデザイン（案）のとりまとめについて、本日あった意見を振り返りたい。

第1章に関しては、王子地区と赤羽地区の取り扱いについて、7ページのところの文言の修正、この加筆等の対応をお願いしたい。また20ページから21ページの、目標とするまちからまちづくりの方向性についても、対応関係を意識した記載、特に防災に関するものなどを入れていくべきではないかといった指摘があった。

また今後は、このグランドデザインの考え方に基づいて、行政だけではなく、協議会などの場も活用しながら公民連携で取り組み、それが個々の公園等の利活用や管理等にも反映されていくことの重要性なども、改めて強調された。ぜひ検討いただきたい。

さらに、この検討会の冒頭でも申し上げたが、王子駅周辺は大変高い潜在力を持っているということは皆さん共通認識を持っているようであるが、一方でキャパシティー（収容能力）がないという大きな課題がある。その課題については、区庁舎の移転を契機にし、どのように解決していくかについて、具体的には整備計画に委ねることになるが、一旦、展開施策案ということで整理された。



最後に 1 点、念をおしておきたいことがある。今回グランドデザインとしてまとめた内容は、法律や条例に基づくマスタープランではないため、3 年程度の賞味期限のようなものがあるように思っている。早いものだと、これから約 10 年かけて事業推進をしていくことになると思うが、スタートの切り方が非常に重要になる。短期から長期と長期間で実施していくことではあるが、最初の 3 年で、ぜひともスピード感を持ってグランドデザインの実現に取り組んでいただきたい。

王子駅周辺まちづくりグランドデザイン（案）の修正に関しては、正副会長と事務局に一任ということでよいか。

（一同）

異議なし。

（会長）

それでは今後の対応については、正副会長と事務局で速やかに取り組み、グランドデザインの策定に向けて、次のステップに進んでいきたい。本日も長時間にわたり、また第 1 回から長期間にわたり、熱心な議論をありがとうございました。

#### 4. 区長あいさつ

- 区長より、挨拶と委員の方々への御礼

#### 5. 閉会

- 事務局より、閉会の挨拶
- 傍聴希望者の退場
- 事務局より、本検討会の審議を踏まえて正副会長と事務局で調整ののち、グランドデザイン案をとりまとめる旨連絡

以上